

株主の皆様へ

第1期事業報告書



Nabtesco

『空・陸・海におけるモーションコントロールシステム機器の世界トップメーカー』を目指して。

Contents

◆経営陣からのご説明	1
◆財務ハイライト	6
◆事業別営業の概況	7
◆連結財務諸表	9
◆単体財務諸表	11
◆グループ参考情報	12
◆ここでも活躍、ナブテスコ!!	13
◆会社概要	14



ナブテスコ 株式会社



代表取締役会長
岩垂 重雄

代表取締役社長
興津 誠

新生ナブテスコとして行った第1期の決算は、
計画以上の業績を達成いたしました。
次のステップである「事業統合」の実行により、
統合効果の最大化を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、ナブテスコ株式会社は、2003年9月29日にティーエスコポレーション株式会社
(旧 帝人製機株式会社)と株式会社ナブコの2社の経営統合により誕生し、この度、
第1期目の決算を無事に終えることができました。その成果といたしましては、当初計
画を上回る業績を達成することができました。株主の皆様のご支援に対しまして、深
く感謝申し上げます。

ナブテスコ設立の最大の目的は、経営統合を行った2社の強みを融合し、強い競争力
を持った新たな企業集団を創造することです。そのため、当社は次のステップとして「事業
統合」を予定しております。本年秋の新体制立ち上げに向け、現在、最終調整を行っ
ております。これを機に当社は、統合効果の最大化を目指した本格的な取り組みを始動し
てまいります。

今後とも引き続き、株主の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q1 | 当期は増収増益（計画比）を達成されましたが。

A1 | 当期の連結業績は、当社設立直前の昨年8月29日に発表した予想数値、上方修正予想を掲載した11月11日発表の中間決算短信の予想数値に対して、これらを上回る成果を獲得することができました。昨年8月29日の予想数値と比較すると、売上高が6.3%の増、経常利益が34.6%の増と大幅な増収増益になりました。

この業績好調は、外部環境の好転と企業努力の成果が相まった結果であると考えています。

まず、外部環境要因ですが、米国・中国を中心とした海外マーケットの活況に加え、国内経済も回復基調に向かったことが大きかったと言えます。特に中国は、2008年の北京オリンピックを控え、インフラ整備を中心に活況が続いており、今後、戦略的攻略を進めるべき重要マーケットであると認識しています。

また、事業別に見ると、航空機器事業は米国同時多発テロ事件以降、民間航空機業界は厳しい状況が続いていますが、精密機器事業は産業用ロボット向けの売上が好調に推移し、油圧機器事業においては中国建機市場の好況および国内建機市場の回復など、その他の事業環境は良好であったことから、業績好調で計画を達成することができました。

Q2 | 業績好調の内部要因としては何があげられるでしょうか。

A2 | 一言で言えば、事業運営体制の収益力改善が進んだ成果であると考えています。グループ全体をあげて取り組んできたコストダウン、リードタイムの短縮、たな卸資産圧縮など一連の努力の結果、当社グループには従来以上の「利益体質」が備わりつつあります。この体質改善によって、当期は売上伸長率以上の利益の増加を果たすことができました。当社は、業界・技術領域・社風などの点で類似性を持つ一方で事業分野としては一部を除いてほとんど競合していない2社の経営統合によって誕生した会社です。従って、利益体質づくりの取り組みは、各事業単位で当社設立以前から積極的に行っていました。その成果が今回の売上拡大局面で大きく花開いてきました。

統合効果という視点から見ると、一部競合していた油圧機器事業において収益性が大きく改善しており、その意味で統合を象徴する成功事例と言えます。同事業では、経営統合以前から2社の間で業務提携による共同開発・営業協力などを進めてきましたが、本年4月からは更に「購買部門」を集約しました。今後、利益体質は一層強化されていくものと考えています。

Q3 | 次のステップとして 「事業統合」が控えている訳ですが。

A3 | 本年秋に当社は、簡易合併方式によりティーエスコポーレーション株式会社と株式会社ナブコを吸収合併し、純粋持株会社から事業持株会社に移行する予定です。コア事業は「社内カンパニー」として運営し、個々の事業部門で世界No.1を目指す独立性の高い経営を行う予定です。

事業統合後の重点戦略としては、当社設立段階で策定した4つの中長期的経営戦略を引き続き追求していきます。

すなわち、

- ・ 統合効果の極大化
- ・ 利益ある成長
- ・ 事業持株会社への移行と経営体制の確立
- ・ グループコンプライアンス体制の確立

です。

当社は、経営統合の1年目で、中期3ヵ年計画の最終年度(2006年3月期)目標に近い利益を上げることができたわけですが、当面は、新たに中期計画を策定することよりも、この経営戦略の推進に注力していきたいと考えています。すなわち、将来においてより大きな統合効果を上げ、利益ある成長を持続していくために、今はその「経営基盤の構築」に専念するべき時期であると認識しています。

Q4 | 今後の「利益ある成長」のためには 何が必要でしょうか。

A4 | コア事業の収益性を一層高めていくことに加え、今後の取り組みで重要と考えているのが、コア技術の融合による「新事業・新製品の創出」です。

当社は現在、

- ・ 精密機器新製品
- ・ 風力発電機用駆動システム
- ・ 福祉機器

などを主な新規事業分野と捉え、研究開発及び営業開拓を積極的に展開しています。2004年3月期のグループ全体での研究開発費は約44億円ですが、新規事業育成のための人的投資を含め、重点的に開発を行っています。

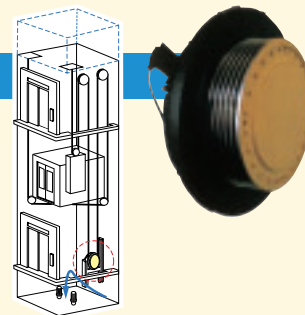
これらの新規事業が収益に貢献するようになるまでには、もう少し時間を要するものと思われませんが、現在の目標としては、2008年3月期に100億円の売上達成を目指しています。

もちろん、コア事業においても既存市場だけでなく新しい市場への拡販を目指して、用途開発に取り組んでいます。例えば、精密機器事業では、精密減速機とモータを組み合わせた「精密サーボ・アクチュエータ」として機器のコンポーネント化を図り、使いやすい製品に仕上げています。この結果、ロボット分野・工作機械・半導体製造装置等IT関連分野向けなど、多様な用途市場での需要が増えつつあります。

ナブテスコの主な新事業・新製品

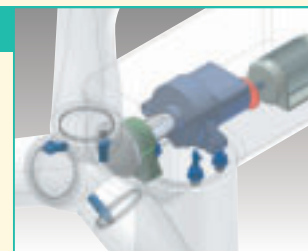
精密機器新製品

2002年4月、RV減速機の技術を応用した「次世代型エレベータ巻上機」を開発いたしました。機械室の不要なエレベータレイアウトに対応した超薄型、世界最軽量を実現した画期的製品として市場から好評を博しています。



風力発電機用駆動システム

「風力発電機用駆動装置」は、風向きに応じて風車の方向を回転させる「旋回駆動装置 (YAWギア)」と、風力に応じて風車の羽根の角度を調節する「ピッチ駆動装置」があります。当社の「風力発電機用駆動装置」は、優れた耐衝撃性と軽量・コンパクトという特徴を有しています。



福祉機器

世界初マイクロコンピュータ制御による当社の「インテリジェント義足」は、ゆっくり歩きから早歩きまですべての歩行スピードに瞬時に対応できるのが特徴です。さらに、膝の屈曲角度も160度まで曲げられるので、日常生活のさまざまな姿勢に対応可能です。



Q5 「技術シナジー」の追求も大きなテーマですね。

A5

現在、育成を図っている新規事業の多くは、当社のコア技術の融合から生まれてきました。その

意味でも、技術シナジーの追求は、新規事業育成と表裏の関係にある重要なテーマです。加えて、コア事業の技術的競争力を強化していく上でも重要なテーマとなります。

当社は事業毎の独立採算性を重視した経営を推進しており、研究開発も各事業単位で個々に行っています。これは、事業毎の専門性を高め、市場ニーズにフィットした技術を迅速に開発・提供していく上で、非常に合理的な体制です。一方、事業間の技術交流を活性化させ、技術シナジーが新たな収益を生み出していけるための構造を確立していきたいと考えています。

そのために、今後は本社に設置している「技術本部」の機能をより一層強化していきます。この技術本部は、①各事業で開発された個々の技術を集約し、その融合によるシステム化を図ること、②産業界全体の動きを捉えながら今後必要とされる技術領域の研究開発を各事業に指導すること、③収益性の視点から生産技術を開発することなど、より一層、生産性向上に向けた技術シナジー追求の中心的役割を果たしていく予定です。

Q6 今後、企業価値を高めていく上で何が重要とお考えですか。

A6

企業価値は、社会の中でのあり方と、株主の皆様

に対するあり方という、2つの側面を考えなければなりません。企業はまず、社会の一構成員としてCSR(企業の社会的責任)を視野に入れた経営を行うことが重要です。当社の中期的な基本戦略の一つに「グループコンプライアンス体制の確立」を掲げ、これを基礎とした収益の追求が企業の基本であると考え、コンプライアンスの観点から業務ルールの検討を進めるなど、全社的な徹底を図っています。

また、企業は株主の皆様に対する利益還元を十分に果たさせてこそ、その価値が評価されるものと考えます。当社は現在、株主資本比率36.5%、ROE9.4%という水準まで経営指標を向上させてきました。今後、株主資本比率を40%台へ、ROEを10%台へと更に向上させ、株主の皆様への一層の利益還元が可能な経営基盤の確立を目指していきます。

ナブテスコ株式会社は、今後の長期的成長に向け、新たな経営をスタートさせつつあります。

株主の皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

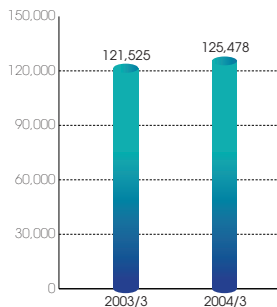
財務ハイライト

当期の数値はナブテスコの連結財務数値ですが、前期のデータについては、2社の連結財務数値の単純合算数値となっております。

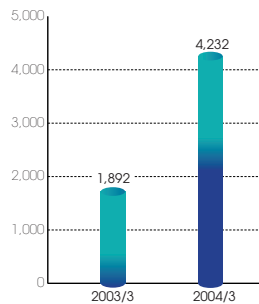
主な経営指標の推移

(百万円)	2003/3	2004/3
売上高	121,525	125,478
営業利益	6,025	8,345
経常利益	5,296	8,477
当期純利益	1,892	4,232
総資産	128,738	130,683
株主資本	42,410	47,718

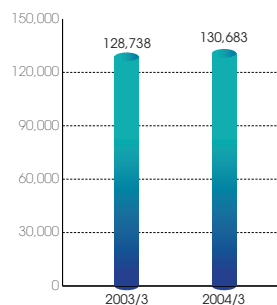
売上高 (百万円)



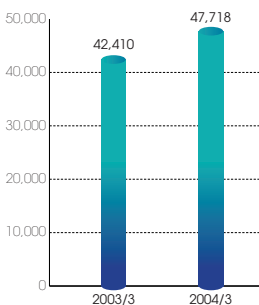
当期純利益 (百万円)



総資産 (百万円)



株主資本 (百万円)



利益還元方針および配当金

当期末の配当金は
1株当たり3円50銭と
いたします。

当社はグループ全体の収益水準をベースに、株主様への安定的かつ継続的な配当を基本とし、将来の企業価値を高めるための内部留保との調和を図ってまいります。また内部留保金は、成長につながる戦略的な投資、機動的な資本政策の遂行のために使用させていただきます。

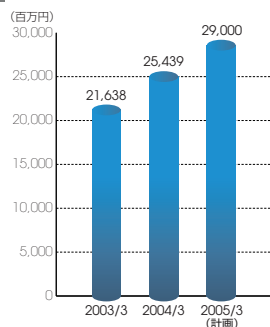
当期末の配当金は、当期の業績や今後の経営環境などを勘案し、1株につき3円50銭といたします。

なお当社は、株式移転を行った日の前日のティーエスコポレーション(株)および(株)ナブコの最終株主名簿に記載された株主様に対して、その所有する株式につき移転交付金を昨年12月にお支払しております。

事業別営業の概況

売上高

■ 精密機器事業…売上高の推移



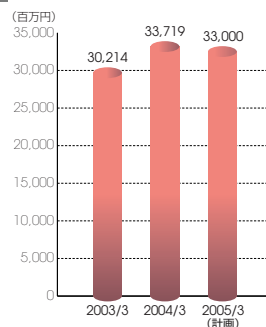
精密機器事業

- 売上高は前期比38億円増加(同17.6%増)の254億円と過去最高を達成し、営業利益は前期比18億円増加(同128.7%増)の32億円となりました。
- 国内外自動車メーカーの設備投資が活況を呈し、ロボット向け精密減速機が大幅増となりました。

精密減速機は、国内外の自動車メーカーの活発な設備投資により産業用ロボット向けの売上が大幅に増加しました。また工作機械向け・半導体製造装置向けについても市場の活況を受け、売上の増加に寄与しました。

来期におきましては、売上高は当期比35億円増加の290億円、営業利益は当期並みの32億円を見込んでいます。精密減速機は、引き続き自動車メーカーの旺盛な設備投資に支えられ、国内外のロボット業界向けが好調に推移し、また工作機械向け精密減速機も順調に推移するものと思われます。

■ 輸送用機器事業…売上高の推移



輸送用機器事業

- 売上高は前期比35億円増加(同11.6%増)の337億円、営業利益は前期並みの10億円となりました。
- 鉄道車両用機器は中国向け輸出が順調に推移。またディーゼル車買い換え需要により、商用車用ブレーキ装置が売上増となりました。

鉄道車両用では国内向けは落ち込みましたが、中国向け電車でブレーキ装置が大幅に売上を伸ばしたこと、また台湾新幹線用ブレーキ・ドア装置の納入が始まったことにより、売上は前期並みの水準となりました。自動車用ブレーキ分野では、ディーゼル車の環境規制への対応によりトラック・バスなどの商用車需要が好調に推移し、売上は増加しました。船用エンジン制御システムについては、船舶の建造隻数の増加により、売上は若干増加しました。

来期におきましては、売上高は当期比7億円減少の330億円、営業利益は当期並みの11億円を見込んでいます。鉄道車両用ブレーキ・ドア装置は、国内の車両需要が引き続き厳しい情勢にあり、売上の伸びは見込めませんが、台湾新幹線を中心とした海外向けおよび新製品の売上の伸びが国内の落ち込みをカバーする見込みです。船用エンジン制御システムについては、国内外の建造数の伸びが予想され、売上が増加する見込みです。

精密機器
254億円(20.3%)

輸送用機器
337億円(26.9%)

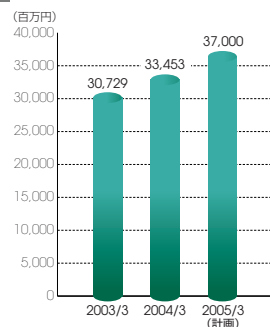
構成比

産業用機器
328億円(26.2%)

航空・油圧機器
334億円(26.6%)



■ 航空・油圧機器事業…売上高の推移



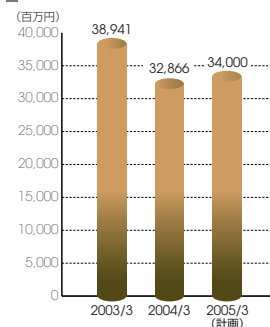
航空・油圧機器事業

- 売上高は前期比27億円増加(同8.9%増)の334億円、営業利益は前期比6千万円増加(同4.3%増)の15億円となりました。
- 航空機器は、米国同時テロ事件の影響を依然として拭えず。しかし一方で旺盛な中国建機市場の需要により、油圧機器が大幅な売上増となりました。

航空機器は、米国同時テロ事件以降の市場低迷とイラク戦争などの影響により、民間航空業界の経営環境は依然として改善の傾向が見えず、厳しい環境が続きました。油圧機器は、北京オリンピックを控えた中国のインフラ整備の活発化による建設機械の旺盛な需要に牽引され、売上が大幅に増加しました。また国内建設機械向けの需要も回復基調で推移しました。

来期におきましては、売上高は当期比35億円増加の370億円、営業利益は同1億円増加の17億円を見込んでいます。航空機器は依然として厳しい環境が続くものと予想されますが、油圧機器は引き続き中国建設機械市場を中心に好調が続くものと思われます。

■ 産業用機器事業…売上高の推移



産業用機器事業



- 売上高は前期比60億円減少(同15.6%減)の328億円、営業利益は前期比4億円増加(同21.2%増)の24億円となりました。
- 自動ドアは大型プロジェクトが一段落し減少。食品用自動充填包装機械は国内外食品業界の堅調な設備投資により売上増となりました。

当期におきましては減収・増益となりましたが、この売上高の減少は、繊維機械事業を持分法適用会社のTMTマシナリー(株)へ事業移管した影響(売上約80億円減)によるものであります。

自動ドア関連分野では、建物用自動ドアの売上は若干前期を上回りましたが、プラットホームスクリーンドア等の大型プロジェクトが前期に完了し、売上は減少しました。産業機械分野では、国内外食品業界、自動車業界の堅調な設備投資により、食品用自動充填包装機械、工作機械の売上が増加しました。

来期におきましては、売上高は当期比11億円増加の340億円、営業利益は当期並みの25億円を見込んでいます。自動ドア関連分野では、新商品の投入により売上の増加を見込んでおります。産業機械分野では、国内外食品業界の設備投資が順調に推移し、食品用自動充填包装機械の売上が増加する見込みです。

連結財務諸表

当期の数値はナブテスコの連結財務数値ですが、前期のデータについては、2社の連結財務数値の単純合算数値となっております。

連結貸借対照表 [単位:百万円]	〈参考〉			当期 (H16.3.31現在)	〈参考〉		
	当期 (H16.3.31現在)	前期 (H15.3.31現在)	増減額		当期 (H16.3.31現在)	前期 (H15.3.31現在)	増減額
資産の部							
流動資産	70,888	68,875	2,013				
現金及び預金	14,801	7,459	7,342				
受取手形及び売掛金	38,580	41,809	△3,229				
たな卸資産	13,226	14,281	△1,055				
その他	4,280	5,324	△1,044				
固定資産	59,794	59,863	△69				
有形固定資産	42,895	45,276	△2,381				
建物及び構築物	16,385	17,480	△1,095				
機械装置及び運搬具	8,718	10,221	△1,503				
土地	14,881	14,990	△109				
その他	2,910	2,583	327				
無形固定資産	1,983	1,810	173				
投資その他の資産	14,915	12,776	2,139				
投資有価証券	9,333	4,920	4,413				
その他	5,581	7,856	△2,274				
資産合計	130,683	128,738	1,945				
				負債の部			
				流動負債	52,441	47,757	4,684
				支払手形及び買掛金	24,133	24,615	△482
				短期借入金	13,723	13,998	△275
				一年以内償還社債	5,000	—	5,000
				その他	9,584	9,143	440
				固定負債	27,302	35,450	△8,148
				社債	—	5,000	△5,000
				長期借入金	13,095	17,585	△4,490
				その他	14,207	12,864	1,342
				(負債合計)	79,744	83,208	△3,464
				少数株主持分	3,220	3,120	100
				資本の部			
				資本金	10,000	15,226	△5,226
				資本剰余金	17,709	12,605	5,104
				利益剰余金	18,677	14,937	3,740
				(内、当期純利益)	(4,232)	(1,892)	(2,340)
				その他有価証券評価差額金	2,473	351	2,122
				為替換算調整勘定	△1,060	△691	△369
				自己株式	△81	△19	△62
				(資本合計)	47,718	42,410	5,308
				負債、少数株主持分及び資本合計	130,683	128,738	1,945

財務ポジション

当期末の総資産は、手元流動性資金は73億円増加いたしました。売上債権、たな卸資産等の圧縮に努めた結果、前期比19億円増の1,306億円となりました。一方、有利子負債は前期に比して47億円減少し、318億円となりました。

また株主資本は、前期比53億円増の477億円となり、その結果、株主資本比率は前期よりも3.6ポイント向上し、36.5%となりました。

当期の数値はナブテスコの連結財務数値ですが、前期のデータについては、2社の連結財務数値の単純合算数値となっております。

〈参考〉

連結損益計算書 [単位:百万円]	当期 (H15.4~H15.3.31)	前期 (H14.4~H15.3.31)	増減額
売上高	125,478	121,525	3,953
売上原価	97,187	96,501	686
売上総利益	28,291	25,023	3,268
販売費及び一般管理費	19,946	18,997	949
営業利益	8,345	6,025	2,320
営業外収益	1,693	924	769
(内、持分法による投資利益)	(838)	(102)	(736)
営業外費用	1,561	1,654	△93
経常利益	8,477	5,296	3,181
特別利益	180	1,676	△1,496
特別損失	2,058	3,394	△1,336
税金等調整前当期純利益	6,599	3,577	3,022
法人税、住民税及び事業税	2,239	890	1,349
法人税等調整額	△147	506	△653
少数株主利益	275	287	△12
当期純利益	4,232	1,892	2,340

連結剰余金計算書 [単位:百万円]	当期 (H15.4~H15.3.31)
資本剰余金の部	
I 資本剰余金期首残高	17,904
II 資本剰余金増加高	123
III 資本剰余金減少高	317
IV 資本剰余金期末残高	17,709
利益剰余金の部	
I 利益剰余金期首残高	14,937
II 利益剰余金増加高	4,232
当期純利益	4,232
III 利益剰余金減少高	492
配当金	437
取締役賞与金	48
その他	7
IV 利益剰余金期末残高	18,677

〈参考〉

連結キャッシュ・フロー計算書 [単位:百万円]	当期 (H15.4~H15.3.31)	前期 (H14.4~H15.3.31)	増減額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	15,750	9,652	6,098
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,804	124	△3,928
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,335	△6,677	1,342
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△64	△23	△41
V 現金及び現金同等物の増加額	6,546	3,075	3,471
VI 現金及び現金同等物の期首残高	7,929	4,854	3,075
VII 現金及び現金同等物の期末残高	14,476	7,929	6,546

損益の状況

当社グループを取り巻く経営環境は、中国を中心としたアジア向けおよび欧米向けに自動車・建設機械や半導体・IT関連の輸出の好調、ならびに国内設備投資の増加により、順調に推移しました。これらの結果、当期の連結業績は、売上高1,254億円(前期比3.3%増)、経常利益84億円(同60.1%増)、当期純利益42億円(同123.7%増)となりました。

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローはプラス157億円となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは45億円の設備投資を実施したため、マイナス38億円となりました。この結果、フリーキャッシュ・フローはプラス119億円となりました。これに対し財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済、配当金支払等によりマイナス53億円となり、現金および現金同等物の期末残高は144億円となりました。

単体財務諸表

貸借対照表 [単位: 百万円]	当期 (H16.3.31現在)	負債の部	当期 (H16.3.31現在)
資産の部		負債の部	
流動資産	1,076	流動負債	236
現金及び預金	96	未払金	114
子会社預け金	696	未払費用	106
繰延税金資産	45	その他	15
その他	237	固定負債	27
固定資産	40,020	役員退職慰労引当金	27
無形固定資産	0	(負債合計)	264
投資その他の資産	40,019	資本の部	
子会社株式	40,008	資本金	10,000
繰延税金資産	11	資本剰余金	29,690
資産合計	41,096	資本準備金	29,690
		利益剰余金	1,222
		当期末処分利益	1,222
		自己株式	△81
		(資本合計)	40,831
		負債・資本合計	41,096
損益計算書 [単位: 百万円]	当期 (H15.9.29~H16.3.31)	利益処分 [単位: 百万円]	当期 (H16.3月期)
営業収益	2,034	当期末処分利益	1,222
営業費用	838	これを次のとおり処分します。	
販売費及び一般管理費	838		
営業利益	1,196	利益配当金	444
営業外収益	0	(1株につき3円50銭)	
営業外費用	0	取締役賞与金	33
経常利益	1,196	次期繰越利益	744
税引前当期純利益	1,196		
法人税、住民税及び事業税	30		
法人税等調整額	△57		
当期純利益	1,222		
当期末処分利益	1,222		

ティエスコポレーション株式会社

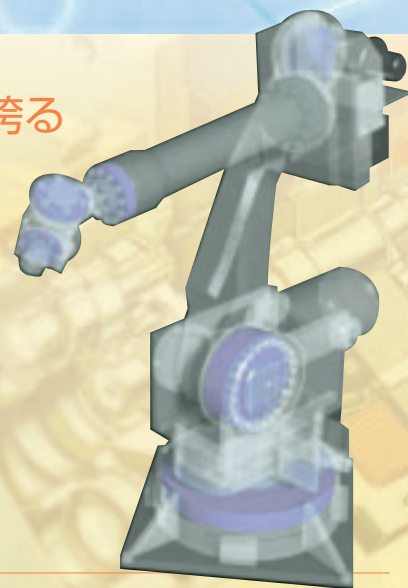
連結貸借対照表 [単位：百万円]	当期 (H16.3.31現在)	前期 (H15.3.31現在)	増減額
資産の部			
流動資産	35,838	33,154	2,684
固定資産	27,258	27,279	△20
有形固定資産	21,082	22,893	△1,811
無形固定資産	910	1,007	△96
投資その他の資産	5,265	3,377	1,887
資産合計	63,097	60,433	2,664
負債の部			
流動負債	33,445	29,472	3,973
固定負債	7,785	11,546	△3,760
負債合計	41,231	41,019	212
少数株主持分	1,116	1,068	48
資本の部			
株主資本	20,748	18,345	2,403
負債、少数株主持分及び資本合計	63,097	60,433	2,664
連結損益計算書 [単位：百万円]			
	当期 (H15.4.1～H16.3.31)	前期 (H14.4.1～H15.3.31)	増減額
売上高	66,478	66,221	257
売上原価	50,439	52,255	△1,816
売上総利益	16,039	13,966	2,073
営業利益	5,545	3,842	1,703
経常利益	6,014	3,502	2,512
当期純利益	3,234	1,569	1,664

株式会社ナブコ

連結貸借対照表 [単位：百万円]	当期 (H16.3.31現在)	前期 (H15.3.31現在)	増減額
資産の部			
流動資産	35,068	35,721	△653
固定資産	32,524	32,584	△59
有形固定資産	21,813	22,382	△569
無形固定資産	1,072	803	268
投資その他の資産	9,638	9,398	240
資産合計	67,592	68,305	△712
負債の部			
流動負債	19,848	18,285	1,563
固定負債	19,488	23,903	△4,414
負債合計	39,337	42,188	△2,851
少数株主持分	2,104	2,051	52
資本の部			
株主資本	26,150	24,064	2,085
負債、少数株主持分及び資本合計	67,592	68,305	△712
連結損益計算書 [単位：百万円]			
	当期 (H15.4.1～H16.3.31)	前期 (H14.4.1～H15.3.31)	増減額
売上高	59,617	55,303	4,313
売上原価	47,357	44,245	3,111
売上総利益	12,259	11,057	1,202
営業利益	2,884	2,183	700
経常利益	2,503	1,793	709
当期純利益	1,102	322	779

ここでも活躍、ナブテスコ!!

市場から高い評価と確固たるポジショニングを誇る
ナブテスコの精密機器。
産業用ロボットの関節用途向け精密減速機では
世界市場No.1のシェアを確立。



ナブテスコの精密機器事業は、「精密減速機」単体と、サーボモータと精密減速機をコンパクトに一体化した「精密サーボ・アクチュエータ」を主力製品とし、エレベータ巻上機や真空ポンプ、光造形装置、熱制御デバイス、デジタルロギングシステムなどを世界市場へ展開しています。

現在、「モーションコントロール技術」は自動車生産ラインをはじめとした様々な製造現場の自動化・省人化・環境配慮などのニーズの急速な変化に伴い、高度な技術レベルを要求されています。このような環境の下、モーションコントロールのための独自の動作技術をベースに、ナブテスコでは小型・軽量・精密・高剛性・高効率など、あらゆる市場ニーズを満たした画期的な製品を提供しています。それらはいずれも市場から高い評価を受けており、特に産業用ロボットの関節用途向け精密減速機では、当社製品が市場全体の約60%を占め、世界市場トップの地位を確立するに至っています。

引き続き国内外自動車メーカーの活発な設備投資に伴い、ロボット向け精密減速機は好調を維持するものと期待されます。また一般機械業界での産業用ロボットの導入拡大も予測され、ロボット台数ベースで年率5%程度の成長が見込まれています。今後とも一層の製品強化に努め、ナブテスコは、お客様の問題解決さらには世界の先端産業の支援に努めていきます。

産業用ロボットの関節用途向け
精密減速機 世界シェアNo.1



会社概要

会社名 ナブテスコ株式会社
 設立 2003年9月29日
 所在地 東京都港区海岸1丁目9番18号
 資本金 100億円
 従業員数 単体 84人
 連結 3,851人
 連結子会社 国内 16社 (他持分法適用会社 2社)
 海外 9社

役員構成 (平成16年6月24日現在)

【取締役会】
 代表取締役会長 岩垂 重雄
 代表取締役社長 興津 誠
 専務取締役 本田 侑三
 専務取締役 田中 均
 常務取締役 山中 盛男
 常務取締役 秋山 晋一
 取締役 松本 和幸
 取締役 佐和 博
 社外取締役 高田 治
 社外取締役 長島 徳明

【監査役会】
 常勤監査役 萩原 茂明
 常勤監査役 松田 孝介
 監査役 船井 孝祐
 監査役 石丸 哲也
 監査役 柴山 高一

【業務執行体制】
 最高経営責任者 興津 誠
 専務執行役員 本田 侑三
 専務執行役員 田中 均
 常務執行役員 山中 盛男
 常務執行役員 生田 満穂
 常務執行役員 岡本 正巳
 常務執行役員 秋山 晋一
 常務執行役員 児山 立平
 常務執行役員 吉田興四郎
 執行役員 佐々木 慧
 執行役員 麻生 輝清
 執行役員 松本 和幸
 執行役員 大下 邦男
 執行役員 立古 史朗
 執行役員 阿部 裕博
 執行役員 中村 秀一
 執行役員 坪内 繁樹
 執行役員 牧村昌太郎
 執行役員 美濃 和彦
 執行役員 川西 正則
 執行役員 松田 保陽
 執行役員 井上 陽一
 執行役員 森本 秀行
 執行役員 片多 博
 執行役員 今村 正夫

(株)神戸製鋼所監査役
 帝人(株)代表取締役副社長

(株)ナブコ常勤監査役
 帝人エンジニアリング(株)取締役
 税理士法人中央青山顧問

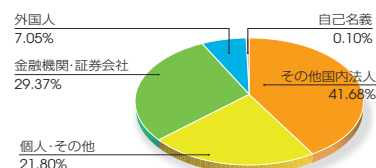
(株)ナブコ代表取締役社長
 建築事業部長
 技術本部長
 ティーエスコポレーション(株)代表取締役社長
 企画本部長
 技術本部副本部長(生産改革担当)、(株)ナブコ常務取締役
 ティーエスコポレーション(株)常務取締役
 航空・油機カンパニー社長(航空機担当)、
 エス・ティ・エス(株)代表取締役社長
 油機統括、(株)ナブコ常務取締役
 機械制御システム事業部長
 ティーエスコポレーション(株)常務取締役
 精機カンパニー社長兼精機計画部長
 (株)ナブコ常務取締役 車両事業部長
 ティーエスコポレーション(株)執行役員、
 東洋自動機(株)代表取締役社長
 (株)ナブコ常務取締役 東京支社長
 技術本部副本部長(技術開発担当)、
 ティーエスコポレーション(株)取締役 技術開発室長
 (株)ナブコ執行役員、
 ナブコサービス(株)代表取締役社長
 ティーエスコポレーション(株)執行役員、
 ログイット(株)代表取締役社長
 (株)ナブコ取締役 管理部長
 総務・人事本部長兼総務部長
 人事部長、ティエスコポレーション(株)取締役
 総務人事室長兼人事労務部長
 油機統括、ティエスコポレーション(株)取締役
 航空・油機カンパニー副社長(油機担当)
 (株)ナブコ執行役員、ナブコア(株)代表取締役社長
 ティーエスコポレーション(株)執行役員、
 TMTマシナリー(株)取締役副社長
 (株)ナブコ執行役員 車両事業部副事業部長
 企画部長 ティーエスコポレーション(株)執行役員
 (株)ナブコ執行役員 建築事業部副事業部長
 (株)ナブコ執行役員 自動車事業部長
 ティーエスコポレーション(株)執行役員、
 Nabtesco Aerospace Inc. 社長
 知的財産部長 (株)ナブコ執行役員

株式の状況

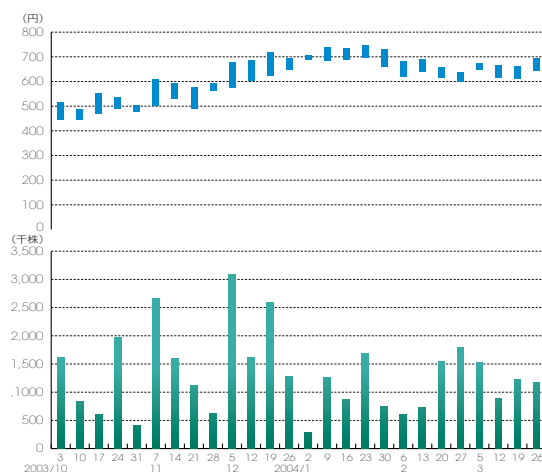
●発行済株式の総数 127,212,607株
 ●株主数 12,156名
 ●大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率
帝人株式会社	39,544	31.78%
株式会社神戸製鋼所	8,500	6.83%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社神戸製鋼所口)	8,011	6.44%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,412	5.96%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,716	3.79%
ナブコ拡大従業員持株会	1,566	1.26%
ザバンク オブ ニューヨーク ノントリー・ティージャステック アカUNT	1,382	1.11%
日本生命保険相互会社	1,085	0.87%
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	1,076	0.86%
株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ	1,049	0.84%

●所有者別株式数比率



株価・出来高の状況



Nabtesco Corporation

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目9番18号

Tel.03-3578-7070 Fax.03-3578-7237

証券コード：6268

株 主 メ モ

- ◆決算期： 3月31日
- ◆定時株主総会： 毎年6月
- ◆基準日： 定時株主総会、利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
- ◆1単元の株式数： 1,000株
- ◆公告掲載新聞： 日本経済新聞
当社は決算公告に代えて、貸借対照表ならびに
損益計算書を当社のホームページに掲載しております。
当社のホームページアドレス
<http://www.nabtesco.com/jp/ir/kessan.html>
- ◆上場証券取引所： 東京証券取引所 市場第一部
- ◆株式の名義書換： (1)名義書換代理人
東京都港区芝3丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
(2)同事務取扱所
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 本店 証券代行部
電話03-3323-7111(代表)
(3)同取次所
中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

お 知 ら せ

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。